

特集 **若者の政治参加を身近なものに**

2～3面 寄稿・能條桃子 (NO YOUTH NO JAPAN代表)

5面 横浜・湘南・静岡YWCAの主権者教育

6～7面 戦争を体験した先輩からのメッセージ

# つなげよう! U30世代♡政治

若い世代の政治参加。どのように後押しすれば、若者は動くのか。  
U30世代と政治の距離をグッと近づける取り組みが若者の支持を得ている「NO YOUTH NO JAPAN」にヒントがありそうだ。

The Young Women's  
Christian Association

# YWCA

8

AUGUST  
2021

No.763

〈第33総会期主題聖句〉

平和を実現する人々は幸いである  
—マタイによる福音書5章9節—

〈ビジョン〉

女性がリーダーシップを発揮し、  
人権・平和・環境を大切にす社会

〈ミッション〉

若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます。

〈バリュー〉

キリスト教基盤 平和・環境 人権 セーフスペース

[www.ywca.or.jp](http://www.ywca.or.jp)



わたしたちの  
生きたい社会を  
つくろう

# 若者が声を届け、 その声が響く社会を目指して

低い20代の投票率、  
きっかけはデンマーク留学

2019年、21歳の大学3年生だった私は、デンマークに留学をしていた。デンマークでは多くの若い世代が投票に行き、選挙を楽しんでいた。その様子に感化されていた私は、その年の7月に日本で参議院選挙が実施されると知って、デンマークから日本のためにできることをしようと考えた。デンマークでは、選挙前、社会課題に対して「意識の高い・低い」に関わらず、家でも学校でも友人同士の会話でも頻繁に選挙に関する話がされており、日本でもこのような光景が広がれば、きっと投票率も上がるのではないかと、そんな社会では社会変革のスピードが早いのではないかと、という期待を持つようになっていたからである。

そして、日本の若い世代の投票率を上げたいと立ち上げたプロジェクトが「NO YOUTH NO JAPAN」。若い世代なくして、これからの日本は



デンマークでは市民と政治との距離が近い。若者たちは花火に行くように政治のイベントやデモに参加する

ない」という思いを込めての名称である。このプロジェクトは、インスタグラムなどを利用して選挙に関する分かりやすい情報を発信し、2週間で10代・20代中心にフォロワー1万5000人を集めた。しかし、実際の投票率は30・96%であり、前回の選挙から下がる結果となった。選挙前に「投票に行こう」とバズるだけでは投票率は上がらないと痛感し、日常から政治や社会に興味を持つ人を増やそうと「NO YOUTH NO JAPAN」を団体化。現在、10代・20

代の70名が所属している。

個人の「モヤモヤ」は社会の課題。  
解決するために政治がある

なぜ若い世代が政治に関心を持つことが重要なのか。それは政治が、若い世代が問題意識を持つ社会課題を解決するためのツールとなりうるからである。「若者は政治に無関心」と言われるが、「若年層の政治に対する関心」に関する各国比較調査では、投票率が高いスウェーデン<sup>\*</sup>と日本とでは約14%しか差がない。若い世代の政治への関心は一定程度あるのだが、また、新型コロナウイルスの感染拡大は大きな契機となったと思う。コロナ禍によって社会課題への関心、変わらない日本社会への問題意識を持つ若者が増えている。その「関心」が、投票やそのほかの政治参加といった「行動」につながることで、若い世代の声がより社会に届くようになる。

行動につながるために、NO YOUTH NO JAPANではインスタグラム



一般社団法人  
NO YOUTH NO JAPAN  
代表理事

能條桃子



政治に詳しくないメンバーもいる。関心もそれぞれ違う。NYNJは多様な若者たちが「生きたい社会」を目指すコミュニティ

ラムを運営することで、知って・スタンスを持って・行動するきっかけをつくることを目指している。「なぜジェンダー平等はまだ実現しないのだろうか」「LGBTQ+に対する差





### profile

能條桃子 [のうじょう・ももこ]

1998年、神奈川県生まれ。慶應義塾大学経済学部在学中にデンマークに留学。2019年、政治の情報を分かりやすくまとめたInstagram「NO YOUTH NO JAPAN」を立ち上げ、2週間でフォロワー1万5000人を集める。同団体を法人化し、代表理事を務める。現在、慶應義塾大学大学院1年生。SNSなどを通して気候変動やジェンダーなど社会問題について意見を発信している。



一般社団法人

### NO YOUTH NO JAPAN

学生を中心に活動するコミュニティ。「U30世代が政治や社会を知って、スタンスを持って、行動する入り口をつくる」をミッションに掲げ、政治や社会課題のトピックを若者目線で発信。写真共有アプリ「Instagram」で配信するポップで分かりやすいビジュアルメッセージが同世代の心を捉えている。現在、フォロワー約6万4000人。「投票」に関する既存の投稿を再編集した書籍『NO YOUTH NO JAPAN vol.1 わたしたちの生きたい社会をつくらう』（よはく舎）を発行。

公式サイト

<http://noyouthnojapan.org/>

Instagram

[https://www.instagram.com/noyouth\\_nojapan/](https://www.instagram.com/noyouth_nojapan/)



### 自分とみんなと次世代のために、 社会には、社会運動が必要

社会運動や活動は、一見効率が悪く、無駄なようにも思われる。ソーシャル・ビジネスが流行る中で、また政治家や官僚になるという可能性がある中で、社会を良くする手段としてほとんどの人にとって重要なものとは見なされていない。権力を持たない私たちは、静か

別的な言動が気になる「最近暑くなっているし、気候変動は大丈夫なのだろうか」と感じているU30世代は多くいる。一人でモヤモヤと問題意識を持っているU30世代に対して、その問題を深く知り、自分の意見を持ち、行動することで、私たちが生きる社会は私たちがつくっていくことができる、と伝えることで仲間を増やしていきたいと考えている。

※内閣府「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」(2018年度)



比較的女性のメンバーが多い。男性の多い他メディアとは違う切り口の発信が期待できる

モノを言わない受動的な消費者・顧客としての市民に成り下がっているのかもしれない。日本はこれまで経済成長を経て、自分だけ良ければそれでいい人が増え、社会に対する理想や倫理観よりも合理的な損得が重要視されてきたともいえる。しかし、そんな社会に嫌気が差し、気候変動や格差を前に、社会の転換の必要性を感じている人も多いのではないだろうか。市場経済でこの社

会のすべての問題は解決できない。また、人権や権利は、誰かが求め活動することで得てきたものであり、その恩恵をみんなが享受しているものでもある。次の世代に、少しでもマシな社会を残すために、そして、自分のことだけを考えるのではなく誰かと共有することに価値を置くことが「善く生きる」ことではないだろうか。

### 自分から楽しみ行動すれば ワクワクの輪が広がる

社会運動や「社会を良くする」活動に熱中すると、活動を始める前には意識せずとも知っていた世間の当たり前の感覚が、いつの間にか分からなくなることがある。同時に、使命感ばかりに追われて、自分が本来何のためにやっているのか見失うことがある。社会や事象に対する怒りやもどかしさの積み重ねで、日々の暮らしや人間関係、これまでの社会



若者たちの思いや問いを直接投げかける「Instagramで政治家と話そう」シリーズを実施。蓮舂議員(上)と能條さん

の積み重ねに対する愛おしい気持ちや忘れてしまうことがある。人が動くのは、危機感や怒りだけではない。人が動くのは、期待や希望などワクワクする気持ちでもありたりするものだ。危機感や怒りだけでは持続が難しい。仮想敵をつくり、モチベーションを担保する形では、真に「みんなにとって生きやすい社会」は実現しないからこそ、たまにはココロが躍るアイデアや理想を探してみたい。そんな思いでNO YOUTH NO JAPANは明るくポップなデザインと内容をお届けするよう心掛けている。

## NO YOUTH NO JAPAN



# 若者が思わず指を止める 刺さるインスタグラムのわけ

NYNJ (NO YOUTH NO JAPAN) のインスタグラムは、U30世代が政治や社会課題を知るための入り口として、若者目線のトピックを発信。開設から約2年で6.4万人のフォロワーを持つ人気メディアに成長した。若い世代の心を捉える発信の秘訣を探ってみよう。

### 自分たちの世代が今知っておきたいこと

「『自分は差別してない』って言い切れる?」「女の子はこう、男の子はこう、そんな基準どこにもない」「ファッションは多くの動物を犠牲にしている」「社会の『痩せ信仰』に飲み込まれないで」

これらはNYNJのインスタグラムの投稿タイトルだ。これを見てスワイプするか飛ばすか、読み手のジャッジは一瞬だ。言葉にひかれてスワイプすると、一目で問題を捉えられるイラストやデータ、語り掛けるような説明文が現われる。カラフルでポップなデザインもまた、近寄りやすい社会課題のハードルを下げています。

制作しているのは、同団体の編集チームのメンバー約20名。その多くは学生だ。「私たちの世代が今

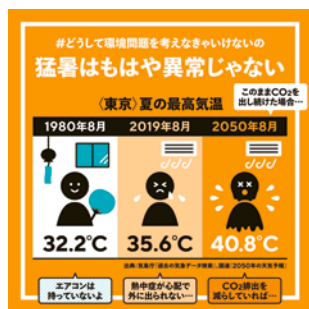
知っておきたいこと」という視点で毎月のテーマを決め、ライターと編集者のような分担制の2人組で投稿画像を作成。デザインはプロのデザイナーが手がけている。

### 同世代のモヤモヤを代弁する

若者向けに政治を分かりやすく伝えようとするメディアは多い。しかし、関心の低い人の心を動かし、投票などのアクションにつなげるには、その発信が相手の心に刺さらなければならない。そのためNYNJは、同世代のモヤモヤを代弁することを意識している。その月のテーマについて、U30の日常のリアルな不満、素朴な疑問やモヤモヤを掬い上げ、言葉化する。例えば「教育」のテーマには「ブラック校則やめてほしい」「大学は就活予備校なの?」な

どのリアルな声を入りに、さまざまな教育の問題を知り、自分なりのスタンスを持つと呼びかける。最近では、ファッション、性教育、メンタルヘルスなどより身近な関心事をテーマに掲げ、日常と政治が地続きであることを伝えている。大人でさえ思わずシェアしたくなる投稿も多い。制作したメンバー自身が小さな発見や学びにワクワクしながら発信しているからだ。受け手もそのワクワクを誰かに伝えたい。これもまたNYNJの発信の大きな魅力なのだ。

日々スマホから流れる膨大な情報を捌く若者たちは、関心のない情報を次々と飛ばしていく。その指をいかに止めるか、次の扉を開けさせるか。一つの投稿をアクションにつなげようと進化を続けるNYNJの発信に注目しよう。



NO YOUTH NO JAPAN インスタグラム  
衆議院選挙に向けた投稿も見逃せない!

▶ [https://www.instagram.com/noyouth\\_nojapan/](https://www.instagram.com/noyouth_nojapan/)





横浜 | 湘南 | 静岡

3地域YWCAの  
主権者教育初めの二歩は身近な  
「おかしい」に気付くこと

あらゆる人が生きやすい社会を実現するための一歩として、横浜YWCAは、湘南YWCA・静岡YWCAと連携して2019年から「イチからわかる政治入門セミナー」を実施。政治に強く関わりのない人とも一緒に考えられる、文字通り最初の一歩から始めた主権者教育への取り組みを紹介します。

## 「個人的なことは政治的なこと」

この言葉は、私たちがセミナーについて話し合う中でよく出てくる言



中学2年生180人を対象に講座を実施（横浜市立鴨居中学校）

葉です。もともとラディカル・フェミニズムによって生み出されたスロガンですが、問題を個人に矮小化するのではなく、社会構造から生まれている政治的な問題として提起していく力強い概念だと思っています。日本は特に政治経済分野での意思決定に関わるポジションを占める女性の割合が著しく低い現状があります。けれども、そもそも自分の身の回りで起きている出来事が、「おかしなこと」や「怒ってよいこと」であると気付くことが、政治や社会を変えていく第一歩になると私たちは信じています。

このような考えに基づき、「イチからわかる政治入門セミナー」では、多様な角度から政治について学び考え合う場を作り、より公正な社会の実現に向けて、特に女性の政治への

コミットメントを高めることを目的としています。

## 政治的有効性感覚を持つために

私たちの取り組みは、政治・社会問題に積極的に取り組むアウトドア総合メーカー「パタゴニア」横浜店社員の皆さんとの協働プログラム「パタゴニア横浜店で話そう、政治のこと、未来のこと」（2019年度）を皮切りにスタートしました。身近なところで政治参加について学び、YWCAについても知っていただくことのできた実り多い会だったと思います。

2020年度は残念ながら新型コロナウイルス感染拡大により中止を余儀なくされましたが、ウイメンズ・マーチへの参加や女性たちの非暴力直接行動を撮ったドキュメンタリー上映など「直接行動」をテーマとした企画を計画していました。

今年度、具体的な取り組みとして行っているのが、2か月に1度のペースで実施している「教科書の読書会」です。これは、政治を通じて「自分自身で社会を変えられる」という政治的有効性感覚を小さな頃から多くの人（特に女性）に持ってもらうため、主権者教育を行うことが目的にあります。そのため、実際に私

たちが使いたい「教科書」を作り、それをもとに今後学校への出前授業を行うことを目標に、まずは今できる活動として、政治と人との距離がより近いと思われるフィンランドやドイツ、スウェーデンの現代社会や道徳の教科書を読んでいます。日本の教科書との違い、気付いたこと、どの部分を自作の教科書に落とし込むか、といったことをざくばらんに話し合っています。

## 政治にコミットできる環境を

今後の出前授業の先駆けとして、6月の初旬、横浜市立鴨居中学校にお邪魔して、約180人の中学2年生と先生方を前に「国際理解講座」の1コマを受け持たせてもらいました。時間の都合で生徒の皆さんと講座後に直接話をすることはできませんでしたが、校長先生を始めとする多くの先生方がYWCAの活動を理解してくださったため、今後も積極的に連携させてほしいと考えています。

いずれも地道な一歩ですが、これらの活動を通じて、より女性が積極的に政治にコミットできる環境を身近なところから作っていきたいと思います。

横浜YWCA会員 堀添里緒

この時代に語る

# 政府の責任により 再び戦争の惨禍が 起きないために

きれいなお星さま！

私の記憶は6歳の時に自分が死ぬと自覚したことに始まっています。

1945年3月9日の夜半、父に起こされました。「空襲警報だ。すぐに教会堂に避難しよう。」起こしたのは、その2日前に赤ちゃんが生まれて、母は起きられなかったからで

す。起こされて、窓際に立った私は「きれいなお星さま！」と言いました。

赤や黄色の光が夜空二面に降っているのです。父は赤ちゃんを抱いた母を支え、私と3歳の妹を促して隣の教会堂に連れていきました。コンクリート作りの教会堂は、他よりも丈夫そうに見え、近所の人たちも避難してきましたが、警棒団の人が見回りにきて、ここは燃える、もつと安全なところに逃げろというので、大

想像を絶する犠牲者を出して敗戦を迎えた日本は、「もう二度と戦争はしない」と決意し、国民が主権者となり、平和な社会を築こうと歩み出しました。あれから76年、私たちの社会は、政治はどうでしょう。今こそ、戦争を体験した先輩の声を聴き、過ちを繰り返さないために私たちができることを考えてみよう。

半の人は去っていきました。

東京の下町に始まった東京大空襲は、下町を燃やし尽くし、山の手の本郷の教会の近くまで燃えてきていたのです。教会堂に残っていたのは、私たちの家族と、病人のいる家族など、10人くらいでした。やがて、隣の牧師館を見に行った父が「もう牧師館も燃えている」と言いました。その瞬間、私は「園子ちゃんが焼け死んじゃった」と思ったのです。園子ちゃんというのは、私が大事にしていた人形で、どこに行くにも抱えていたのですが、その晩は、生れたばかりの赤ちゃんに人形がなくてかわいそうだから貸してあげると、赤

ちゃんの枕元に置いてきてしまったのです。自分の分身ともいえる園子ちゃんが焼け死んだということ、自分も焼け死ぬのだと直感しました。

星が追いかけてくる

壁の掲示板の紙が熱風で動いているのを眺めていた私を父は抱き上げ、妹と二人を膝に乗せ、自分のオーバーですっぽり頭から包んで、こう話しました。「伶子と祐子は今から天国に行く。いま、神様が大きな美しい羽根を作っていらっしやっつて、伶子たちはその羽根を付けて天の使いになって、天国の野原を飛ぶんだ。



天国の野原はきれいな花が咲いていて、鳥が楽しく歌っていて、とても素晴らしい。何も怖いことはない」それから、いつも寝るときに歌ってくれていたブラームスの子守歌を歌ってくれました。父のオーバーにくるまれ、父に抱かれて、子守唄を聞いているうちに、真夜中のことでもあり、私は眠ってしまいました。

目が覚めた時には、教会の周囲は全部焼け落ち、人が焼けた匂いがしていました。その晩に、10万人以上の人が焼け死にました。私が3歳までいた亀戸の教会では、兵隊に行っていた数人を残して、みな焼け死んでしまいました。いつも遊んでいた同じ年の男の子はお母さんと一緒に死に、4つ上のお兄さんは学童疎開で生き延びたものの孤児になり、浮浪児になったと聞きました。

空襲のあと、大人の人たちに「怖

かったでしょう」と聞かれると、「怖くなかった、眠っていた」と答えた私でしたが、たびたび星に殺される悪夢に脅かされていました。星が光の槍をもって私を追いかけてきます。どこに逃げても星は入り込んできて、やがて首に槍をつきつけるのです。その熱さにギヤツと叫んで目を覚ますと、母が「また悪い夢を見たの」と言っていました。夜空の星を怖がらずに見上げられるようになったのは中学に入ってからでした。

### 心に響いた新しい憲法

中学で習った『※あたらしい憲法のはなし』は非常に印象的でした。「恐ろしい戦争が終わりました」と始まり、戦争に行った「お父さんやお兄さんは無事にお帰りになったでしょうか」と先生が読むと、前の席の子

のセーラー服の肩が小刻みに揺れていました。お父さんが戦死した友人で、泣いているのです。こういう中で、社会科のテストでは日本国憲法前文と第9条の暗記テストがありました。難解な言葉もありましたが、「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないように」とか「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、我らの安全と生存を保持しよう」と決意した」という部分など、心から同意できるものでした。そのために、私たち国民が主権者であり、選挙を通して自分の願いを実現していくのだということも習い、20歳になるのを待ち焦がれました。

### 主権者としての自覚を

いま、日本は戦争をする国に向かって進んでいます。それに対して、

国民主権を自覚する人が少なく、一部の政治家に任せる気風が世の中に蔓延しています。子どもが死を自覚するとか、死におびえるという社会をもたらし、絶対には許せません。世界から戦争をなくすと同時に、日本が戦争をする国にならないよう、主権者としての自覚を深めたいと思います。

東京YWCA会員 鈴木伶子

※『あたらしい憲法のはなし』

日本国憲法が1946年11月に公布、1947年5月に施行されると、当時の文部省は新しい憲法を解説するための中学1年生向けの教科書を発行しました。憲法の精神や内容を平易な言葉やイラストで説いた親しみやすい教科書でしたが、数年で廃止されました。現在は、復刻版が出され、またインターネットなどで読むことができます。



2021年度  
加盟YWCA中央委員会  
報告

## ▶ 新たなビジョンの下で共に社会変革を

5月22日、2021年度加盟YWCA中央委員会がオンラインで開催された。

第33総会期最初の中央委員会は、苦難の中にあっても、YWCAの使命を忘れずに共にビジョンの実現を目指そうという藤谷佐斗子会長の力強いメッセージで開幕した。全国の地域YWCAの皆さんによる楽しい1分間アピールの後、議事に移った。日本YWCA報告では、構想から10年、ようやく理事会の下に誕生した、YWCA運動を担う会員・職員の変革のためのリーダーシップ養成に携わる「人材養成部会」と、よりオープンで持続可能なYWCAを目指して「Y」、「W」、「C」、「A」の各分野の研究を行う「平和のためのYWCA研究室」の2つの新たな組織の詳細

が報告された。また、今総会の新たなビジョンと前総会期の活動の棚卸し、そしてYWCAが置かれている現状分析を踏まえて新たに編成された5つの委員会（人権・ジェンダー/平和・核/中高YWCA/地域連携/ネットワーク強化）について、その構成と活動方針が示された。

午後からは、前総会期の大きな試みの一つであったLA(Local Action、地域YWCAが主体となるプログラム)第2期の最終報告が行われた。コロナ禍のため、延期や開催の中止を余儀なくされたプログラムもあったが、地域の枠を超えて複数のYWCAが協力し合うことで実現した、7つのいずれもユニークなプログラムに改めて強い印象を受けた。

最後に、オープンプログラムとして人権・ジェンダー委員会の企画による「地域YWCAジェンダー活動交流会」が行われた。ジェンダーについて個性豊かな活動を行っている地域YWCAからの活動報告の後、少人数のグループに分かれ、日々の生活で感じるジェンダーの「モヤモヤ」や、各地域に持ち帰って実践できそうなアイデアについて話し合った。YWCAが取り組むイシューの中でも、世代差や地域差が大きいジェンダーの課題について、フランクに話し合える貴重な機会となった。

新たなビジョンの下で、多世代の会員と共に手を携えて社会変革を目指していきたいと思う。

日本YWCA書記 吉田亜希



ご協力ありがとうございました  
賛助費  
磯村美保子 内海公子  
郡恭子 田中義信  
女子聖学院中学校高等学校  
ピースメーカーズ募金  
（平和を創り出す女性のリーダーシップ養成）  
川戸れい子 坂口和子 渡邊愛子  
一般財団法人仙合YWCA  
（国内外の災害被災者支援）  
長崎YWCA  
大阪女学院中学・高等学校  
東日本大震災被災者支援募金  
清水嶋洋子  
敬和学園高等学校  
（カーソポーターズ募金）  
カーソポーターズ 61件  
（2021年4月16日〜6月15日）  
敬称略

### ！ ポケット版『そうだったのか！憲法』インターネットで配信！

日本YWCAは日本国憲法の価値を一人でも多くの人に知ってもらいたいという思いから、2018年の春、ビギナー向けの小冊子を発行しました。これまで学習会やイベントなどで用いられてきましたが、改憲への動きがさらに加速している今、PDF版をインターネットで配信します。ぜひご覧いただきと共に、シェアをして拡散にご協力をお願いいたします。

URL▶ <https://www.ywca.or.jp/pdf/2021/kenpou.pdf>

紙版も引き続き配布しています！

